

# スポーツフィールド (TYO: 7080)

**2023年12月期第3四半期（2023年7-9月期）も好調。通期予想上方修正と配当開始を発表。**

## サマリー

### 会社概要

◇**株式会社スポーツフィールド**（以下、同社）はスポーツ人財に就職関連サービスを全国規模で提供している。東証グロース市場に上場。同社の2022年12月期実績は売上高28.7億円、経常利益6.3億円であり、現在の中期経営計画によれば2024年12月期に売上高36.0億円、経常利益7.7億円を目指す。

◇**スポーツ人財に特化、特色ある営業スタイルで市場をリード**：同社の現在の主要事業は新卒のスポーツ人財、特に体育会学生に関わる就職関連サービスである。市場規模は学年あたり全国で5万人程度と推計されるが、同社はスポーツ経験者を中心とした営業社員にアナログなサポートを行う体制を構築、就職希望登録者が年々2万人程度の規模になってきた。スポーツ人財の求人希望する企業の開拓も定着しており、特定した市場でリーディングポジションを確保しつつあるとみられる。

◇**現在の主要事業**：売上高の構成（2022年12月期）は体育会新卒者向けイベント39%（出展企業から出展料を受領）、体育会およびスポーツ経験者に関する新卒人財紹介事業30%（学生に就職カウンセリングを行い、就職先企業を紹介、内定承諾後に採用企業から採用コンサルティング料を受領）、既卒者向け人財紹介事業（既卒スポーツ人財に対する就職カウンセリングを行い、就職先企業を紹介、成果報酬として企業より人財紹介料を受領）からなる。

### 2023年12月期第3四半期アップデート

◇**好調維持し通期会社見通しを上方修正**：2023年12月期第3四半期（7-9月期）は、売上高は7.0億円（前年同期比+15%）、営業利益は0.8億円（同+22%）、経常利益0.8億円（同+24%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は0.5億円（同+18%）となり、営業基盤の強化と採用市場の改善による順調な業績拡大が続いている。期初からの累計ベースで、売上高、営業利益、経常利益がいずれも過去最高の更新を果たした。

この結果を踏まえ、同社は通期業績見通しについて、売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益、一株当たり当期純利益のいずれの予想値も上方修正した。

◇**配当開始へ**：同社は11月20日に配当方針の変更を発表した。財務基盤の基礎が固まったとの判断から配当性向を従来のゼロから20%に引き上げ、2023年12月期末から配当支払いを開始する。予想一株配当は30円で配当利回りは1.8%になる。成長継続と資本効率に対する目配りを両立させるものでポジティブである。

◇**成長を織り込み直す株価**：同社の株価は第3四半期決算発表、配当開始の発表好感し急騰し、本年7月の高値1,894円をうかがう位置にある。

◇**今後の注目点**：第一に、来年度の成長継続の確度。特に、2025年3月卒予定の体育会学生向けスポナビ登録者数、およびスポーツ経験学生向けスポチャレ登録者の積み上がり、同社営業スタッフによる登録者カバー率。

第二に、既卒者向け人財紹介事業、スポーツ関連企業に特化した求人サイトであるスポジョバなど新卒以外の新たな収益基盤の確立。

第三に、次期中期経営計画の方向性ないし大枠に関する同社からの表明。

## 3Q決算アップデート

### サービス

2023年12月15日

<b>株価(12/14)</b>	<b>1,563円</b>
52週高値/安値	1,894/821.50円
1日出来高(3ヶ月)	31千株
時価総額	57億円
企業価値	44億円
PER(23/12会社予想)	10.5倍
PBR(23/6実)	4.6倍
予想配当利回り(23/12)	1.9%
ROE(22/12期)	71.8%
営業利益率(22/12期)	22.2%
ベータ(5年間)	N/A
発行済株式数	3.6百万株
上場市場	東証グロース

### 株価パフォーマンス



%	1ヶ月	3カ月	12カ月
株価	8	9	68
相対株価	11	14	43

### 注目点

体育会学生およびスポーツ経験学生の就職支援事業の深掘り、多角化事業の展開、高い営業利益率と高いROEの維持・向上、株主還元の時期、グロース市場からの上場市場変更、株式流動性の改善とオーナー等保有株式の売却

当レポート(Company note)は、スポーツフィールドの依頼を受けて作成しております。詳しくは、最終ページのディスクレームを参照ください。

## 目次

サマリー	1
主要財務データ	2
2023年12月期第3四半期決算	3
株価動向	7
今後の注目点	8
業績推移	9
参考情報	11

## 主要財務データ

決算年月		2017年12月	2018年12月	2019年12月	2020年12月	2021年12月	2022年12月
売上高	千円	1,106,727	1,516,370	1,917,813	1,883,269	2,130,256	2,866,214
経常利益	千円	60,171	113,916	192,045	32,016	△35,298	634,239
当期純利益	千円	41,031	72,809	132,965	17,055	△79,133	412,318
資本金	千円	10,300	10,300	92,680	92,712	92,869	93,079
発行済株式総数	普通株式 A種株式 株	20,000 400	20,400 -	881,600 -	882,560 -	897,400 -	1,808,080 -
純資産額	千円	59,396	132,205	429,932	446,826	368,007	780,524
総資産額	千円	418,961	735,377	1,106,275	1,488,182	1,540,544	2,127,327
1株当たり純資産額*1	円	18.20	40.50	121.92	126.58	102.53	215.87
1株当たり当期純利益*1	円	12.57	22.31	40.68	4.83	△22.21	114.44
自己資本比率	%	14.2	18.0	38.9	30.0	23.9	36.7
自己資本利益率	%	100.6	76.0	47.3	3.9	△19.4	71.8
営業キャッシュフロー	千円	108,208	82,994	198,181	△88,974	53,789	609,537
投資キャッシュフロー	千円	△32,962	△75,085	△24,984	△32,077	△67,943	△7,100
財務キャッシュフロー	千円	△82,366	191,526	149,891	396,399	18,139	△120,077
現金及び現金同等物の期末残高	千円	163,792	363,227	686,315	961,663	965,648	1,448,007
従業員数	名	118	164	201	233	266	242

\*1：2019年10月4日付で普通株式1株につき40株、2022年7月1日付、2023年4月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っておりますが、2017年12月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算出しております。

出所：同社資料より



## 2023年12月期第3四半期決算動向

株式会社スポーツフィールド（以下、同社）は、2023年11月13日引け後、2023年12月期第3四半期（7-9月期）の決算を発表した。順調な成長が続いており、今回同社は通期会社予想を上方修正した。来期の業績を占うKPIである、2025年3月卒向けの新卒者向けイベント受注金額およびスポナビ・スポナビエージェント新規登録者数がともに順調に積み上がってきており、来期の業績拡大期待が高まっている。

### 過去最高を再度更新

第3四半期累計（1-9月期）の実績は、売上高25.9億円（前年同期比+15%増）、営業利益7.1億円（同+18%増）、経常利益7.1億円（同+18%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益4.6億円（同+18%増）となりいずれも過去最高を更新した。営業利益率・経常利益率も過去最高だった。売上高の内訳を見ると、新卒者向け人材紹介を中心にいずれのセグメントも順調に成長している。アフターコロナにおける求人需要の回復が、同社の築いた営業基盤に追い風となっている。

第3四半期（7-9月期）に限れば、売上高は7.0億円（前年同期比+15%）、営業利益は0.8億円（同+22%）、経常利益0.8億円（同+24%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は0.5億円（同+18%）だった。同社は年度下半期に業績が伸びにくい季節性を抱えているが、そのようななかでも今期は増収増益を継続している。

今回の決算発表において、会社通期予想が引き上げられた。新たな予想値は、売上高は33.8億円（従来予想31.9億円；前年度比+18%）、営業利益8.3億円（同6.8億円；+30%）、経常利益8.3億円（同6.8億円；+30%）、親会社株主に帰属する四半期純利益5.4億円（同4.4億円；+30%）である。逆算すると第4四半期においても着実に利益を伸ばすことを示唆している。同社の業績の例年の季節性から見ると強めの数値とも言えるが、11月に入ってから修正であることを考えれば、新たな通期会社予想の確度は十分高いと推察される。額面通りにポジティブにとらえたい。

## 2023年12月期 第3四半期決算概要

(百万円)	第3四半期累計		前年同期比	
	2023年12月期	2022年12月期	増減額	増減率
売上高	2,589	2,246	+342	+15.3%
新卒者向けイベント	910	836	+74	+8.9%
新卒者向け人材紹介	916	724	+191	+26.4%
既卒者向け人材紹介	665	600	+65	+10.9%
その他売上	96	84	+11	+14.0%
営業利益	713	604	+109	+18.1%
営業利益率	27.6%	26.9%		+0.7PP
経常利益	712	602	+110	+18.3%
経常利益率	27.5%	26.8%		+0.7PP
親会社株主帰属当期純利益	460	389	+71	18.4%

出所：同社IR資料より



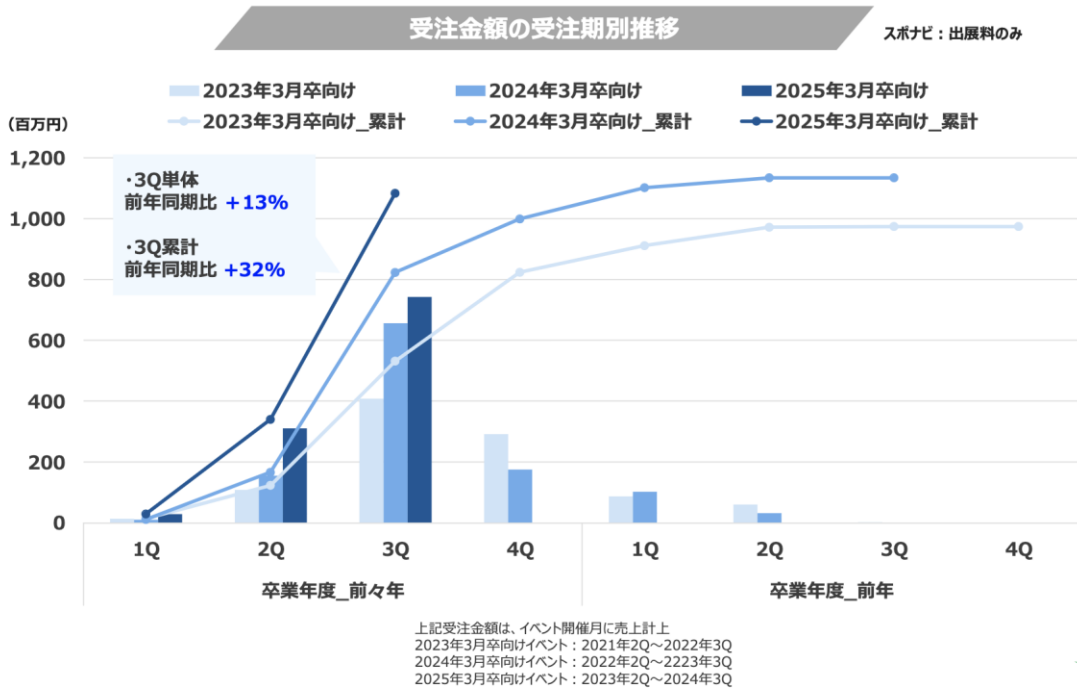
## 2023年12月期第3四半期決算動向

### 新卒者向けイベント事業

第3四半期累計売上高は9.1億円（前年同期比+9%）だった。イベント開催数は前年同期比微減だったが、オンラインイベントから来場型・大規模イベントへのシフトが進み、これが販売枠数・売上高を牽引した。

来期の業績を占う足元の受注は引き続き好調である。2025年3月卒向けイベントに対する企業の出展ニーズは強く、その受注額の累計は2024年3月卒向けに対して累計受注額で+32%増加している。このイベント受注が順調に進むと、同社はその営業力を学生個人の人財紹介に前倒しで充当できるため、この受注の積み上がりは、来期の成長の確度を示唆するポジティブな材料と言える。

### (参考) 新卒者向けイベント事業：受注金額の受注期別推移



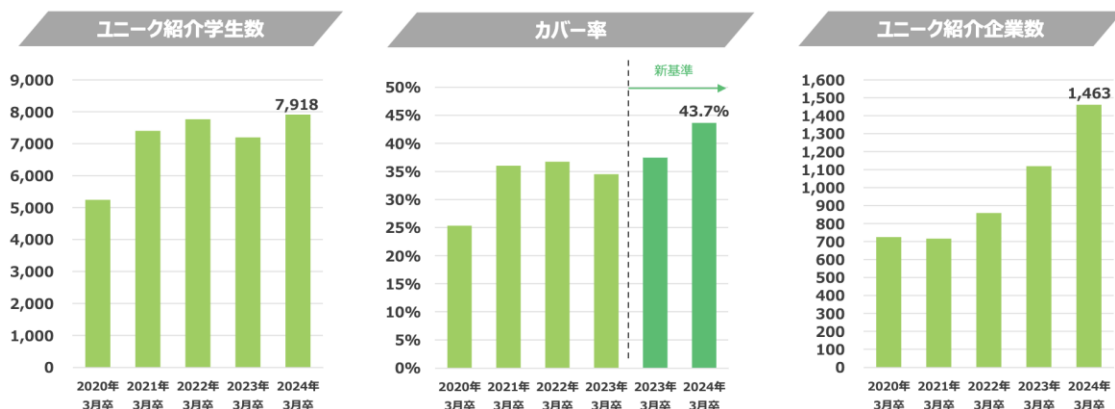
出所：同社IR資料より



## 2023年12月期第3四半期決算動向

### 新卒者向け人財紹介事業

第3四半期累計売上高は9.2億円（前年同期比+26%）と大きく成長した。体育会学生の登録者数を示すスポナビ登録者数は、2024年3月卒生が2023年3月卒生をやや下回ったものの、就職活動の早期化に対応し、同社社員による学生カバー率を引き上げることができたうえ、ユニーク紹介企業数も大幅に増加したため、高い成約率に至り、ユニーク紹介学生数が前年同期実績を上回っている。

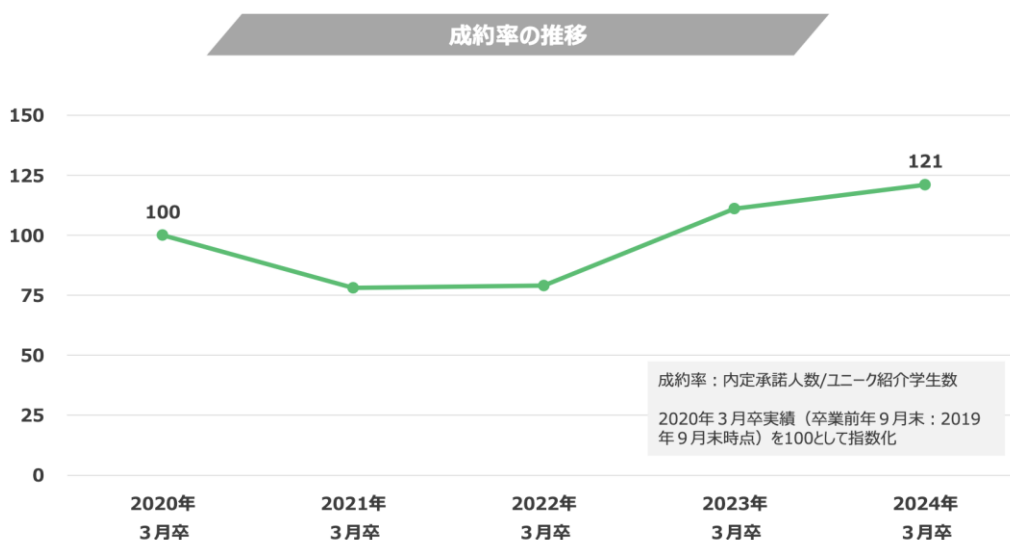


\*KPI 第3四半期（卒業前年9月末）時点実績 スポナビのみ（スポチャレは含まない）  
 \*ユニーク紹介学生数：企業に紹介した重複しない学生数 | ユニーク紹介企業数：学生に紹介した重複しない企業数  
 \*カバー率：登録者の内、面談対応により、アナログな関係構築できている登録者の比率（算出方法：ユニーク紹介学生数/スポナビ登録者数）  
 \*スポナビ登録者数の定義を、スポナビ2024全登録者数から、2023年12月期において企業への紹介対象となる2024年度卒業生への登録人数に変更



出所：同社IR資料より

### （参考）新卒者向け人財紹介事業：成約率



\*KPI 第3四半期（卒業前年9月末）時点実績 スポナビのみ（スポチャレは含まない）  
 \*ユニーク紹介学生数：企業に紹介した重複しない学生数



出所：同社IR資料より

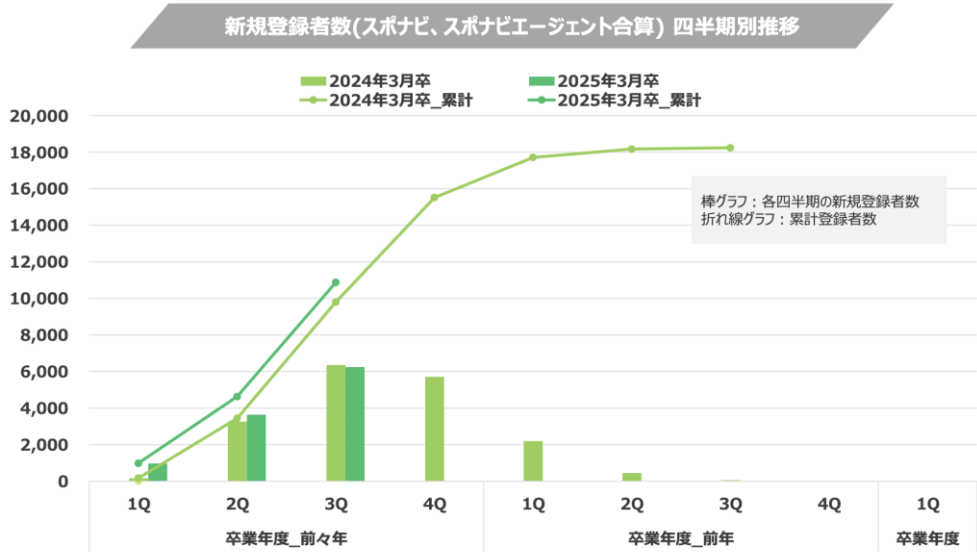




## 2023年12月期第3四半期決算動向

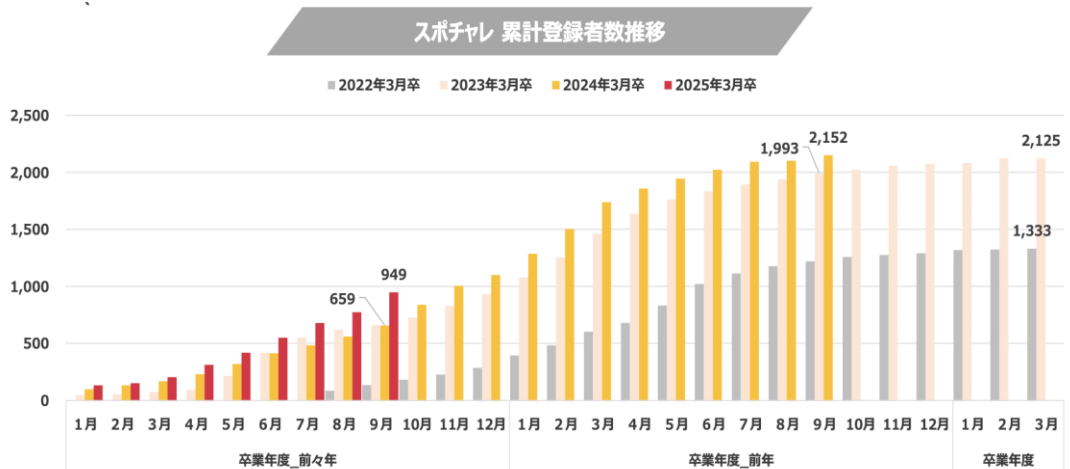
来期を占うもうひとつの重要なKPIである2025年3月卒の新規登録者数の積み上がりも2024年3月卒の実績ペースを上回っており、来期の成長継続を示唆している。

### (参考) 2025年3月卒 新規登録者数 四半期推移



出所：同社IR資料より

スポチャレ（サークル・同好会・学外スポーツチーム・高校部活経験者なども含めたスポーツ人財を対象とした就職支援サービス）の成長も続く。第3四半期累計売上高は1.4億円（前年同期比+37%）となった。登録者数、ユニーク紹介学生数が大幅に伸び、新卒者向け人財紹介事業の売上高の15%を占めるに至っている。



出所：同社IR資料より

### 既卒者向け人財紹介事業

第3四半期累計売上高は6.7億円（前年同期比+11%）も過去最高となった。第3四半期のスポナビキャリア・スポチャレ転職の新規登録者数は高水準を維持しており、企業の採用需要は引き続き好調で、ユニーク紹介人財数、ユニーク紹介企業数がともに前年同期を上回って推移している。新規事業のひとつであるスポジョバ（スポーツ関連企業に特化した求人サイトでオンラインで完結するマッチングが主）からの人財紹介案件が増加し、業績に寄与している点もポジティブである。



## 配当性向の引き上げ発表

---

### 配当性向をゼロから20%に引き上げ配当開始

同社は11月20日に配当方針の変更を発表した。財務基盤の基礎が固まったとの判断から配当性向を従来のゼロから20%に引き上げ、2023年12月期末から配当支払いを開始する。30円配当が予定され、配当利回りは1.8%になる。

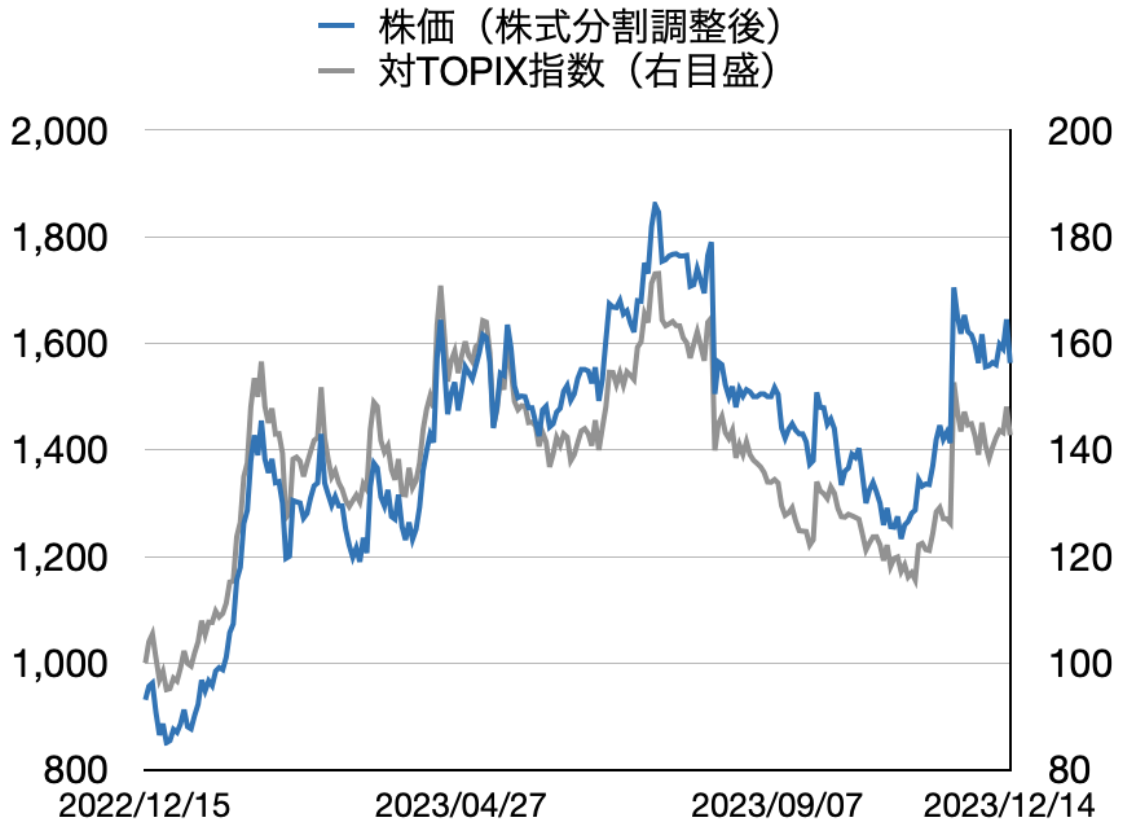
この配当性向の引き上げは、今後の成長継続と資本効率に対する目配りを両立させる布石となると考えられるためポジティブである。

同社はこれまで業績が伸びる局面では現預金、および純資産が積み上がる財務構造にあり、売上高・利益額の成長が続くにつれて資本効率の低下が気になりであった。今後は配当開始によってフローにおける内部留保率が低下し、純資産の積み上がりペースが抑制される。これは、同社の立ち位置が、中長期成長のための財務基盤拡充を継続しつつ、資本効率への目配りを強めることができる段階にステップアップしたととらえられ、ポジティブである。さらに配当を受け取ることを期待する投資家層へのアピールにもつながると考えられる。



## 株価動向

同社の株価は第3四半期決算発表、配当開始の発表を好感して急騰し、本年7月の高値1,894円をうかがう位置にある。







## 今後の注目点

---

当面の注目点を3点挙げたい。

第一に、来年度の成長継続の確度。すでに見たように、2025年3月卒向けイベント受注額は順調に伸びていることから、今後の焦点は2025年3月卒予定の体育会学生向けスポナビ登録者数、およびスポーツ経験学生向けスポチャレ登録者の積み上がりと、同社営業スタッフによる登録者カバー率の動向が一層注目される。あわせて採用市場の熱量にも注意が必要である。

第二に、既卒者向け人財紹介事業、スポーツ関連企業に特化した求人サイトであるスポジョバなど新卒以外の新たな収益基盤の強化である。

第三に、次期中期経営計画の方向性について表明があるのか、またその内容はどのようなものか。現行の中期経営計画（2022年～2024年）の最終年度である2024年12月期の目標額のうち利益目標については、2023年12月期に超過達成することが今回の会社予想の上方修正で明らかになった。2024年12月期業績を占うKPIも着実に伸びていることを考えると、次期中期経営計画の目指す姿が気にならざるを得ない。気が早い話ではあるが、その方向性ないし大枠について可能な範囲で同社から示唆があることを期待したい。

その場合、計数的な損益目標に加えて、成長ドライバーの拡充方針と資本効率に対する考え方を改めて表明することを望むとともに、プライム市場移行への道筋、次に採用市場が冷え込む場合の対応策などについても漸次詳らかになることを期待したい。

## 業績推移

### 通期業績推移

(百万円)

決算期	2019/12期	2020/12期	2021/12期	2022/12期	2023/12期	2024/12期
連結・日本基準	(上場)				会社予想 (修正後)	中期経営計画
<b>【損益計算書】</b>						
売上高	1,918	1,883	2,130	2,866	3,381	3,600
営業利益	194	16	-32	637	828	768
経常利益	192	32	-35	634	827	767
税金等調整前当期純利益	192	32	-81	634		
親会社株主に帰属する純利益	133	17	-79	412	537	
<b>【貸借対照表】</b>						
資産合計	1,106	1,488	1,541	2,127		
負債合計	676	1,041	1,173	1,347		
純資産合計	430	447	368	781		
借入金合計	334	731	749	630		
<b>【キャッシュ・フロー計算書】</b>						
営業活動によるキャッシュ・フロー	198	-89	54	610		
投資活動によるキャッシュ・フロー	-25	-32	-68	-7		
財務活動によるキャッシュ・フロー	150	396	18	-120		
フリーキャッシュフロー	173	-121	-14	602		
現金及び現金同等物の期末残高	686	962	966	1,448		
<b>【経営効率】</b>						
売上高経常利益率	10.0%	1.7%	-1.7%	22.1%	24.5%	21.3%
ROA	14.4%	1.3%	-5.2%	22.5%		
ROE	47.3%	3.9%	-19.4%	71.8%		
<b>【一株指標】</b> 単位：円						
EPS (株式分割等調整後)	41	5	-22	114	148	
BPS (株式分割等調整後)	122	127	103	216		
DPS (株式分割等調整後)	0	0	0	0	30	
<b>【従業員数】</b>						
連結従業員数	201	233	266	242		

出所：同社IR資料よりOmega Investment作成

一株あたり指標であるEPS、BPSは2023年3月に実施された1：2の株式分割の効果を遡及して計算。

## 業績推移

## 四半期業績推移

(百万円)

	2022Q1	2022Q2	2022Q3	2022Q4	2023Q1	2023Q2	2023Q3
売上高	774	862	609	619	919	971	698
新卒者向けイベント売上高	507	267	61	292	578	267	64
新卒者向け人財紹介売上高	79	290	354	119	92	426	396
既卒者向け人財紹介売上高	158	277	164	176	213	247	204
その他	28	26	29	31	34	30	32
営業利益	232	301	69	32	315	312	84
経常利益	231	301	68	31	314	312	84
親会社株主に帰属する純利益	148	196	45	23	205	202	53

出所：同社IR資料よりOmega Investment作成



### 会社概要

社名	株式会社スポーツフィールド			
代表者	代表取締役 篠崎 克志			
設立年月日	2010年1月			
本社所在地	東京都新宿区市谷本村町3-29FORECAST市ヶ谷4F			
資本金	93,079千円（2022年12月末現在）			
役員構成	代表取締役	篠崎克志	取締役(社外)	小林明彦
	取締役副社長	伊地知和義	取締役(社外)	河村直人
	専務取締役	加地正	常勤監査役(社外)	大隅靖朗
	専務取締役	森本翔太	監査役(社外)	山本憲司
			監査役(社外)	田島潤一郎
事業内容	新卒事業部門：イベント事業、人財紹介事業 中途事業部門：人財紹介事業			
売上規模	2,866,214（千円）〔2022年12月期〕			
従業員数	242名（連結：2022年12月末現在）			
拠点	東京本社、札幌オフィス、仙台オフィス、千葉オフィス、横浜オフィス、東海オフィス、京都オフィス、大阪オフィス、神戸オフィス、岡山オフィス、広島オフィス、九州オフィスの12拠点 + 7サテライトオフィス			
総資産	2,127,327（千円）〔2022年12月末〕			



### 主要株主の状況

氏名又は名称	所有株式数	発行済株式（自己株式を除く）の総数に対する所有株式数の割合（%）
篠崎 克志	409,000	22.62
伊地知 和義	209,600	11.59
加地 正	209,600	11.59
森本 翔太	209,600	11.59
楽天証券株式会社	27,400	1.51
スポーツフィールド従業員持株会	25,200	1.39
野村證券株式会社	19,700	1.08
重森 豊太郎	16,800	0.92
NOMURA PB NOMIN EES（常任代理人：野村證券株式会社）	16,200	0.89
医療法人ヒポクラテス竹村内科腎クリニック	16,000	0.88
竹村 克己	16,000	0.88
計	1,175,100	64.99

### 株主構成

2022年12月31日現在

区分	株式の状況（1単元の株式数100株）							計	単元未満株式の状況（株）
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		
					個人以外	個人			
株主数（人）	—	2	22	14	12	2	971	1,023	—
所有株式数（単元）	—	118	1,313	253	535	2	15,840	18,061	1,980
所有株式数の割合（%）	—	0.65	7.26	1.40	2.96	0.01	87.70	100.00	—

（注）自己株式196株は、「個人その他」に1単元、「単元未満株式の状況」に96株含まれております。



## General disclaimer and copyright

本レポートは当該企業への取材や決算資料等を元に作成・表示したのですが、その内容及びデータの正確性、完全性、信憑性を保証するものではありません。本レポートは、情報提供のみを目的としており、投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。オメガインベストメントは、本レポートの使用により発生した結果について一切の責任を負うものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への取材を通じて当該企業より情報提供を受けていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はオメガインベストメントの調査によるものです。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はオメガインベストメントに帰属します。配布、譲渡、複製、及び転送その他の利用は本レポートの著作権侵害に該当し、固く禁じられています。